

片岡鶴太郎展を終えて

成羽町美術館

副館長 沢原一志

去る5月29日、「片岡鶴太郎
ガラスの世界展」が6360
人の入館者数を記録して無事
終了した。鶴太郎さんの展覧
会はいろいろと開催されてい
るが、ガラスの作品展は私ど
もの美術館が全国初である。
講演会・サイン会と大変な賑
わいで、ご本人も高梁市を大

いに気に入る、鮎の時期には
非にと展覧会のリクエストも
いただいたので又機会があれ
ばと考えている。

この企画は「美術館を身近
に」という願いと高齢化社会を
迎えて生涯教育が叫ばれる現
在、市民一人ひとりが自ら創
作活動に携わるきっかけにな
ればという想いで開
催した。

お役に立てたかど
うか反省して次回に
生かしたい。

以下今年の展覧会
予定を紹介しながら
美術館の運営につい
てお話ししたい。

6月には「成羽
キスタイル美術館」
として岡山県立大学
デザイン学部作品展
を開催した。これは
岡山県立大学との共

同企画であり、美術館が地元
大学とタイアップして大学教
育と美術館活動のあり方を模
索するものである。昨秋には
開館10周年記念企画「児島虎
次郎秀作選」会場において吉
備国際大学・文化財修復国際
協力学科の授業も開催され
た。今後は更に保育園や小中
学校教育の関わりを強化し、
教育全般との交流を深めたい
と考えている。

7月末からは「倉敷ガラス
小谷真三展」が約2カ月間開
催される。小谷先生は芳井町
出身の倉敷ガラス創始者であ
り、この度の展覧会は先生の
創作40年の回顧展である。

これは美術館の郷土作家シ
リーズの一環として企画した
ものであり、備中を中心とす
る郷土出身作家の仕事を顕彰
し、次代の人材育成に役立て
たいと考えている。

秋はまさに美術館の季節。
10月から11月末まで特別展と
して新市誕生一周年記念「印
象派と西洋絵画の巨匠展」が
開催される。モネ、ルノア
ール、ミレーなど世界の巨匠作

品を一堂に集めた企画であ
る。折りしも国体の時期であ
り全国からお越しになる方々
に名品をご覧いただき高梁の
文化の秋を満喫していただい
れば幸いである。

新市における美術館として
市民の生活文化にどのよう
に役立ち、またそのためにどう
関わってゆくのかを真剣に考
えなければと思う。

いずれにしても地域に支え
られ地域の人々と共に育つ美
術館でなければならぬことは
明らかである。美術館に対
する忌憚(きたん)のないご意見やご指
摘を心からお願ひするしだい
である。



2005年
市町村振興宝くじ

夢は大きい
ほうが
いい。

1等・前後賞
合わせて **3億円** サマージャンポ宝くじ

発売期間 平成17年7月15日(金)~8月2日(火)
抽選日 平成17年8月12日(金) 当選発表 みずほ銀行岡山支店
この宝くじの取扱いは、市町村の振興くじみよび振替りに従われます。 ☎086-224-0281

方谷先生を訪ねて

4

元締時代——財政改革、豊かにする——

方谷は前号一、三の政策で、きびしい儉約令によって支出をおさえ、借財返済の見通しをつけ、藩札を整理して信用を回復し、健全財政への道筋をつけました。嘉永五(一八五二)年に郡奉行も兼ねて経済のみならず地方政治も掌握し、民政を安定し、富国強兵の方策を実施していきます。

四、産業振興 嘉永五年撫育方を置き、後述する収納米以外の一切の産物を扱ひ、その利益を産業振興などの資金に利用しました。備北の鉄山を開掘、城下の対岸近似村に山陰などより鍛冶職人を数十戸招き、良質の鉄製品を作らせました。備中鍛冶などの農具や釘は評判が良く、特に釘について



いては会津藩士秋月氏が「当時釘を作り江戸へ漕売して一年三千両位に至る」と記されていますから、一両を十万円とみると三億円位もの利益をもたらしたと考えられます。他に銅の利益もありました。山野に杉、竹、はぜ、

漆、茶(津川のは高品質)を植えました。葉たばこを増殖し、城下の内職で刻み、「松山刻」として江戸から九州までも売り出し、織物を作り、また家中屋敷で柚子、柿を植え、柚餅子が作られました。釘、反物その他城下で製作した品は江戸に回漕して販売し、江戸藩邸の費用にあてました。

五、民政刷新 藩主勝静と方谷が最も重視したのが人々の生活の安定です。人の気持や風俗が向上すれば他領から人も金も集まり、藩は栄えると考えて特に力を入れていきます。ぜいたくを戒め、賄賂は厳禁、まず役人が行いを正して人々を指導するよう求めています。

当時備中は支配違いの領土が入り込み、他所から来て悪事を働くものが多かった。方谷は強力な盗賊改方をおいて辺境まで厳しく取り締まり、厳罰に処したので、戸を開けて寝ても安心といわれるほど治安が良くなり、賭博などの賭けごともなくまりました。

安政二(一八五五)年にな

鉄製農具、備中鍛冶など(郷土資料館所蔵)



ると改革の実が上がり、借り上げで厳しい生活を余儀なくされていた藩士に対して、借り上げた一割を返しました。

また農民への税を安くし、困っている村や庄屋に資金を援助して立ち直らせ、町民には商売の資金を援助しました。開墾を奨励してその資金を貸し、他所から来た人も入れ、新開地には税を免除、農民も農地も増加しました。また飢饉に備えて四十か所あまりの郷倉を設けました。

安政四年、方谷は元締を退きましたが、なお御勝手掛として財政や大事の決定には関与しました。この時までに借財はほぼ返して、新紙幣永銭による収入も含めて、撫育方にかなりのお金を貯えることができました。

六、文武奨励 方谷は藩

士に有終館や江戸や野山(東方の守りとして在宅武士が居住)の学問所で文武両道の修業をさせました。卒(下級武士)や町民、農民にも武士に準じた学問を奨励し、城下に鍛冶町教諭所、玉島に玉島教諭所、総社に矢田部教諭所を設けました。多くの藩民は学問を学び、人としての大切な心を育てていきました。

方谷は以前から藩の防衛に心をくだいており、世界情勢にも通じ、洋式の軍備の必要を悟り、弘化四(一八四七)年津山の天野直人に大砲の製法や銃陣を学びました。当時の武士は洋式戦術である号令による一斉行動を嫌ったので、郡奉行になると、農民を組織して鉄砲を貸し与え、農閑期に桔梗原で訓練し、千二百名の郷土防衛隊を創りあげました。第一次長州征討の時、藩主以下武士はほとんど出陣したので、方谷はこの農兵隊で藩の守りを固めていきます。

(文・児玉亭さん)

——来月号につづく——